

海洋深層水関連の韓国のテレビ放送の紹介

2008年10月15日(水)、韓国の江原民放(カンウオンミンバン:SBS)が海洋深層水(ヘイヤン シンチュンス)のテレビ番組(約1時間)を制作し、韓国国内に放映しました。

タイトルは、「資源革命:東海深層水」です。「東海(トンヘ)」は韓国の称名で、日本側の称名は「日本海」です。

●番組の内容

【前出し】

久米島のアワビ(日本)、(江原道:カンウオンドウ)のピーマン、海洋温度差発電(OTEC)、拓海(たくみ)、上原春男(元佐賀大学教授)、海域の藻場(もば)の造成など

【本編】

1. 藻場造成のためのコンクリート・ブロックの設置(高城郡/コソングンの海域:韓国)
2. 湧昇(ゆうしょう)の説明
3. 高城(コソ)海域の海底調査...キム・ドンソン教授(釜慶/プキョン大学)の説明:従来、生息していた海藻や魚類が少なくなってきたが、海洋深層水の利用により増えてきた。
4. 世界の湧昇海域のメカニズムの説明...世界の水産漁獲物の約半分が全海洋面積の約1%の湧昇海域で生産されている。
5. 拓海(たくみ)の実験(日本)...相模湾
6. 江原道・高城郡海域での江原道立大学調査船による海洋深層水の調査...パク・ジョンハン研究員(江原道立大学)の説明
7. 東海(トンヘ)の海洋深層水取水の適地の調査
 - ・東海深層水(トンヘ シンチュス)の流れの状況説明
 - ・ムン・トクス センター長(韓国海洋研究院/KORDI・海洋深層水研究センター)の説明
 - ・2005年:海洋深層水取水管の敷設
 - ・高城郡のオホリ漁港
 - ・高城郡ジユクド海域での「海洋深層水」による藻場造成の実験
 - ・海洋深層水の効果でコンブなどが成長できる
 - ...キム・ヨンデ博士(食糧水産科学院・東海水産研究所)の説明
8. 沖縄・久米島
 - ・サトウキビが久米島の基幹産業(年間約10億円の売り上げ)だったが、今は海洋深層水利用による「クルマエビ」や「海ブドウ」などの水産養殖(年間約15億円の売り上げ)も基幹産業となっている。...ヨリミチ・ナオキ氏(深層水車エビ養殖場)の説明
 - ・クルマエビ出荷...松本健太氏(沖縄県車えび漁業協同組合)の説明:ウィルスフリー(無菌性)クルマエビの出荷が可能となった。
 - ・アワビの紹介...成田健一氏(久米島水産(株)あわび養殖場)の説明:アワビの餌の乾燥藻も海洋深層水(水温約9°C)に浸すと自然状態に蘇る。
 - ・海ブドウ、オゴノリ(刺身のツマ)の養殖...ナカミチ・チカラ氏(深層水海ブドウ養殖)の説明

9. 沖縄県海洋深層水研究所の紹介

・フジモト・ユウ所長(沖縄県海洋深層水研究所)の説明

・兼島盛吉 主任研究員の説明・・・農業への利用(ほうれん草やゴーヤなどの栽培):海洋深層水の効果により生長が早い。

10. KORDIの海洋深層水研究センターから「深層水」が届いた。

11. 江原道(カンウオンドウ)・ヘジャン郡での農業への利用・・・カン・ウォンヒ教授(江原大学・農学部)の説明:ピーマン(パプリカ)、トマト、小ねぎ、トマト糖度試験など:海洋深層水による生長が早まり、トマトの糖度が高くなる。

12. もやしなどの栽培試験・・・カン・ウォンヒ教授(江原大学・農学部)の説明:1%以上の海洋深層水の添加で生長が早くなる。

13. 高城郡(コソングン)土城面(トソンミョン:集落の地名)

・稲作水田・・・ハン・ホンヨル代表(地元農家組合)の説明:こちら一帯の水田は、淡水と海水が混ざった水が農地を肥沃にしている。さらに海洋深層水の利用により付加価値が高まることに期待している。

・カン・ウォンヒ教授(江原大学・農学部)の説明・・・塩のショック効果により農作物の質が変化すると考えている。例えば、タンパク遺伝子の回りに水分子が層状の存在し、いろいろな代謝産物が生産されている。ここにNaCl(NaやCl)の作用が正常な機能や代謝産物の質などに影響していると推測している。

14. 高城郡の農業

・ピーマンのビニールハウス栽培・・・イン・ビョンシク代表(果実・野菜類栽培組合)の説明:ソウルの青果市場では、海洋深層水使用のピーマンが「特1等」となり、卸値が高まった。

15. 高城郡バンアン里の若者の紹介・・・ソウル市に就職していたが海洋深層水農業に夢を抱き、故郷の高城(コソン)にUターンした若者、イ(李)、ソングジュ氏の紹介:ヒラタケ(きのこの仲間:韓国語でヌタリ)の海洋深層水栽培事業化を夢見て、努力している。

・ヒラタケの培養方法の開発・・・海洋深層水(微量元素セレン/Seを含む)と綿くずを混ぜ合わせ、黒ビニールに包んで環境を整えたハウスで培養すると26日位で商品サイズに生長する。

・カン・ウォンヒ教授(江原大学・農学部)の説明:ヒラタケなどの「きのこ類」の生長には、海洋深層水の「抗酸化」の作用が影響していると考えている。

16. 伊万里市(佐賀県)の佐賀大学海洋エネルギー研究センターと海洋温度差発電(OTEC)の紹介

・OTECの紹介

・麻生教授(佐賀大学工学部)の説明:OTECの副産物として「真水」も生産できる。

・門出(もんで)教授(佐賀大学工学部)の説明:OTECの立地(熱帯・亜熱帯海域が候補地)

・佐賀大学との産学協同企業(ゼネシス)・・・インド政府との協同開発を開始

17. NPO日本海洋温度差協会の紹介(理事長:上原春男/元佐賀大学教授):対馬はOTECの適地。OTECと水産(漁場造成など)を結びつけて対馬の地域振興を図りたい。

18. メッセージ・・・中島敏光(京東大学海洋深層水学部教授、海洋深層水研究所長)

19. エンディング(婦人の語り)・・・海洋深層水に接すると、自然への敬意を抱き、心も豊かになる思いがあります。・・・21世紀の新しい資源「海洋深層水」・・・